

結論

新医薬品と既収載医薬品の薬価

- メーカー希望償還価格（MSRP）の導入
- 短期的には、補正加算率の引上げを適用されるべき
- 外国平均価格調整の強化
- 特許切れ医薬品は算定比較薬から除外されるべき
- 類似薬効比較方式（II）の廃止
- 薬価算定組織での企業による意見陳述
- 市場拡大再算定の廃止
- 特許期間中の安定的な価格の保持

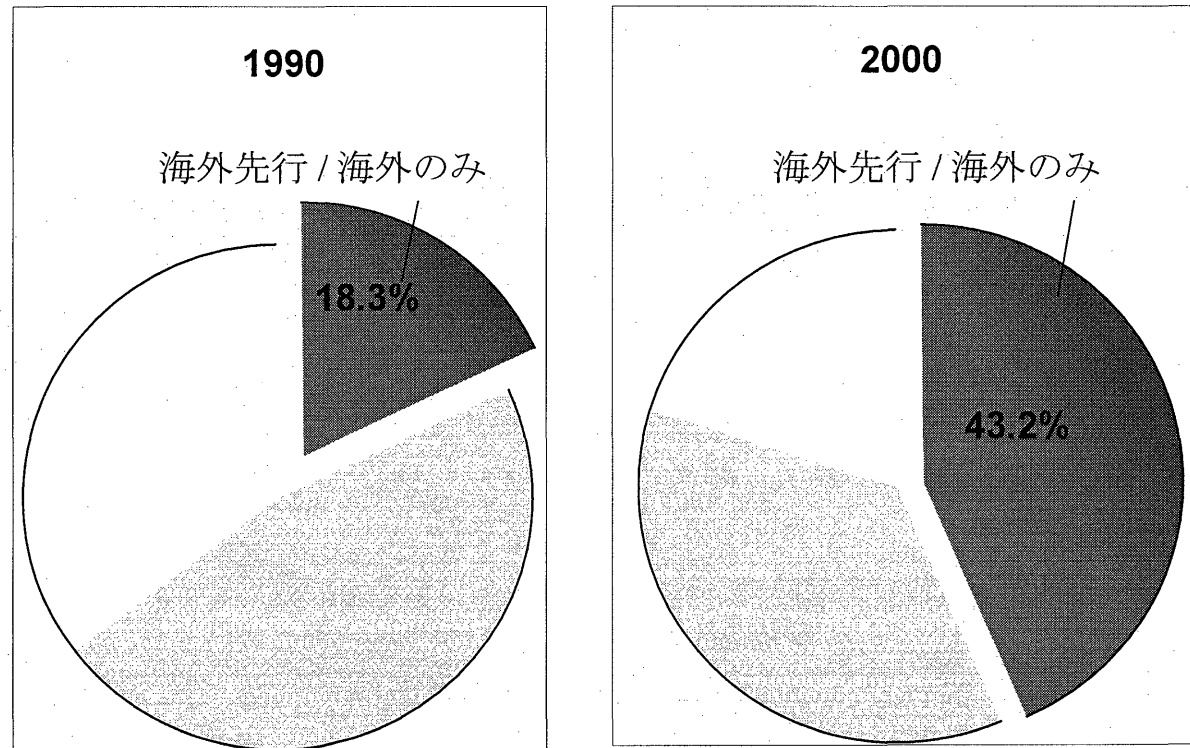
結論：患者中心の医療制度を目指して

- PhRMAは日本国民と政府が質の高い医療に普遍的なアクセスが保持できることを重要だと考える。
- 日本の患者にとって医療の質の向上が必要不可欠と考える。
- しかしながら、現行の再算定制度、2年に一度の薬価改定、不十分な補正加算の適用、長期収載品にかかわる再算定、またその他の政策や慣習は、日本におけるグローバルな競争力を持つ研究開発志向型製薬産業育成には、基本的には矛盾している。
- PhRMA は、日本の規制当局や政策立案者に対して、革新性、競争力、そして特に患者を支持するような政策提言を採択していただくよう強く要求するのである。

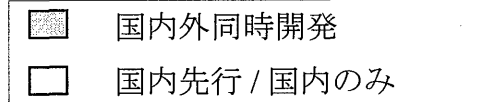
補助データ

新薬開発は海外へシフトしている

治験の地域別推進状況 (日本製薬工業協会会員企業)

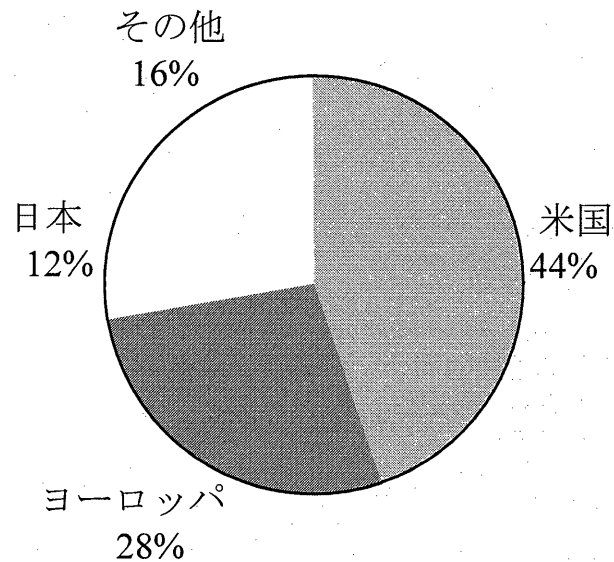


資料：2000年12月 JPMA

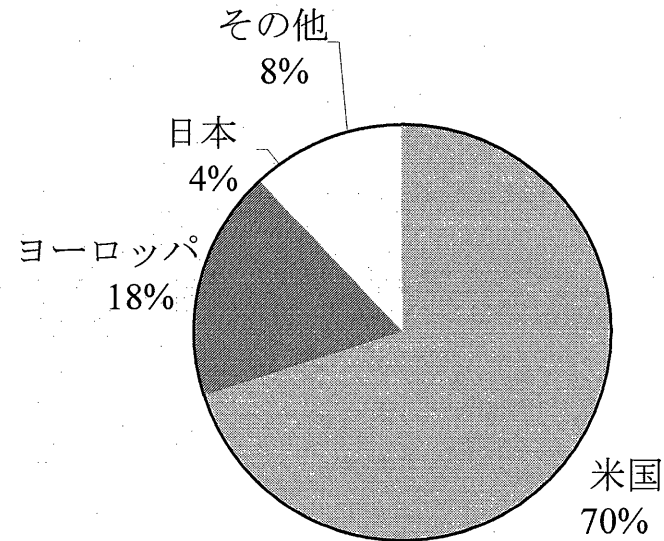


国際医薬品市場のシェア

医薬品総売上高に
占める市場シェア



新薬(1998~2002年販売開始)に
占める市場シェア



出典：PhRMA, OPIR Research Paper No.23 2004.10